

評価の質の改善と プロフェッショナルリズム強化



2013年3月8日
株式会社 国際開発センター
評価事業部長 石田洋子

IDCJ評価事業部の活動紹介

- ◆ 各種評価調査（ODA、省庁、自治体、NGO、学校等）
- ◆ 評価体制強化のための技術協力（ODA）
- ◆ 評価に関する調査研究⇒「JICA評価5項目調査」
- ◆ 日本評価学会事務局
- ◆ 評価士養成講座
- ◆ 評価関連研修
 - 統計研修
 - NGOに対するインパクト評価研修
- ◆ コンサルタントとの勉強会
 - インパクト評価

日本における評価をめぐる動き

- ◆ ODA評価： 外務省、JICA
 - 1990年代前半： 外務省・JICAの評価システム整備
 - 1990年代後半～： 政策・事業レベルの評価のデマケ
 - 2000年代後半～： 第三者評価とレーティング導入
- ◆ 政策評価： 各府省、総務省
 - 「行政機関が行う政策の評価に関する法律」(2002年)
- ◆ 自治体評価： 各自治体、市民参加、第三者
 - 各自治体で制度化
- ◆ 大学評価： 各大学、大学評価・学位授与機構等
 - 認証評価制度(2004年)、国立大学法人評価(2004年)
- ◆ 学校評価： 各学校、外部評価委員会
 - 「学校評価ガイドライン」(2006年)

評価制度化における課題

- ◆ 評価の自己目的化、形式化
- ◆ トップの無理解や誤解、評価への過度な期待
- ◆ 評価を「批判」として後ろ向きにとらえてしまう
- ◆ 評価の名を借りた行政指導になる可能性もあり
- ◆ 成果指標の設定、業績測定の難しさ
- ◆ 理論・手法は未整備のままに始動
- ◆ 評価結果を組織の学びにつなげられない
- ◆ 評価結果公開の難しさ(市民にはわかりにくい)
- ◆ 評価人材・専門性の不足
- ◆ 評価に関する教育訓練機会が不足

評価の質の改善へ向けての動き

JICA「DAC評価5項目の評価視点及び判断基準の標準化」(平成11年度調査)

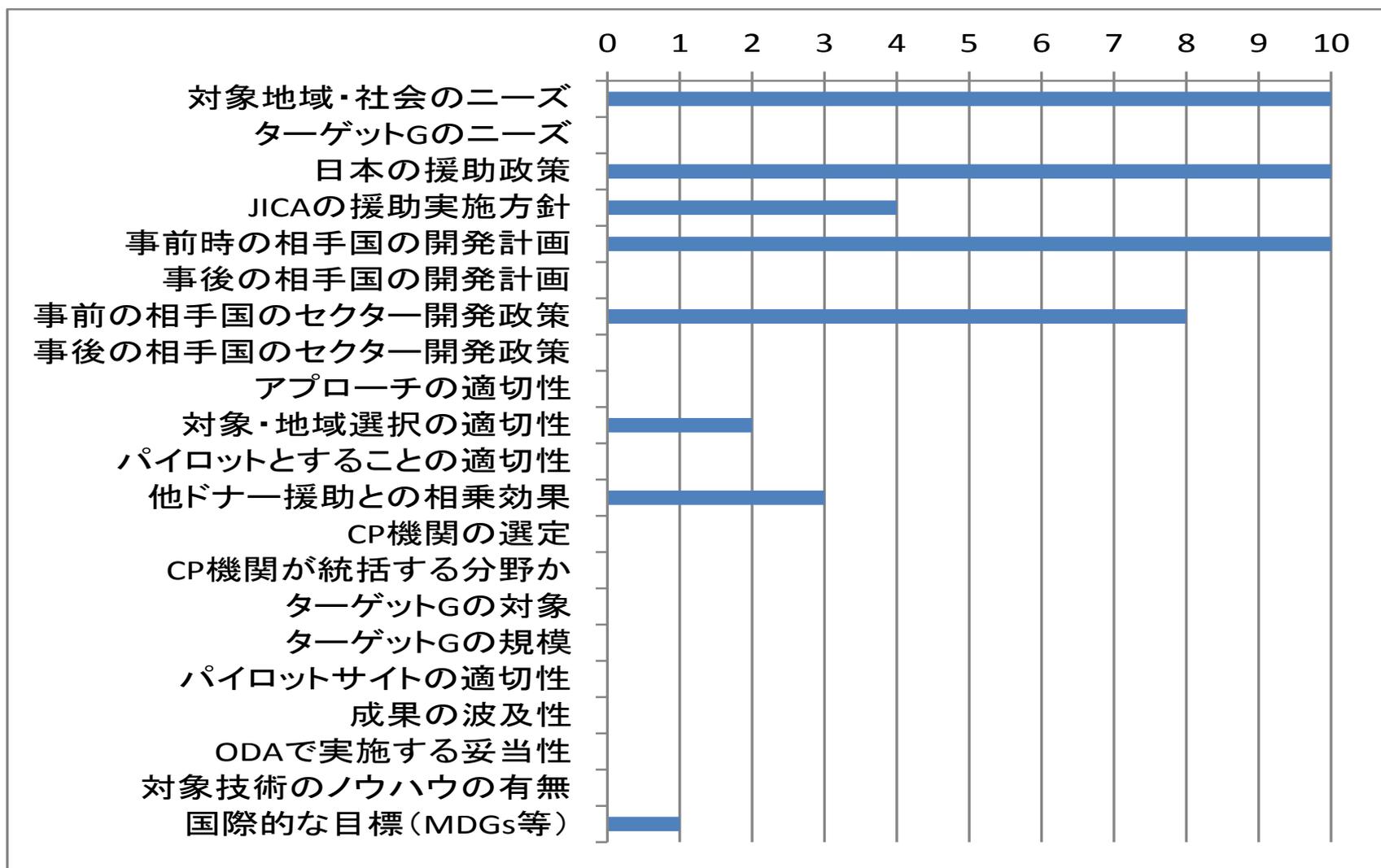
◆ 目的

- 援助スキームの特性に留意しつつ、事業評価におけるDAC5項目ごとの評価視点及び判断基準をレビューする。
- その結果に基づいて、事業評価間の評価視点・判断基準の標準化への具体的提言を作成。

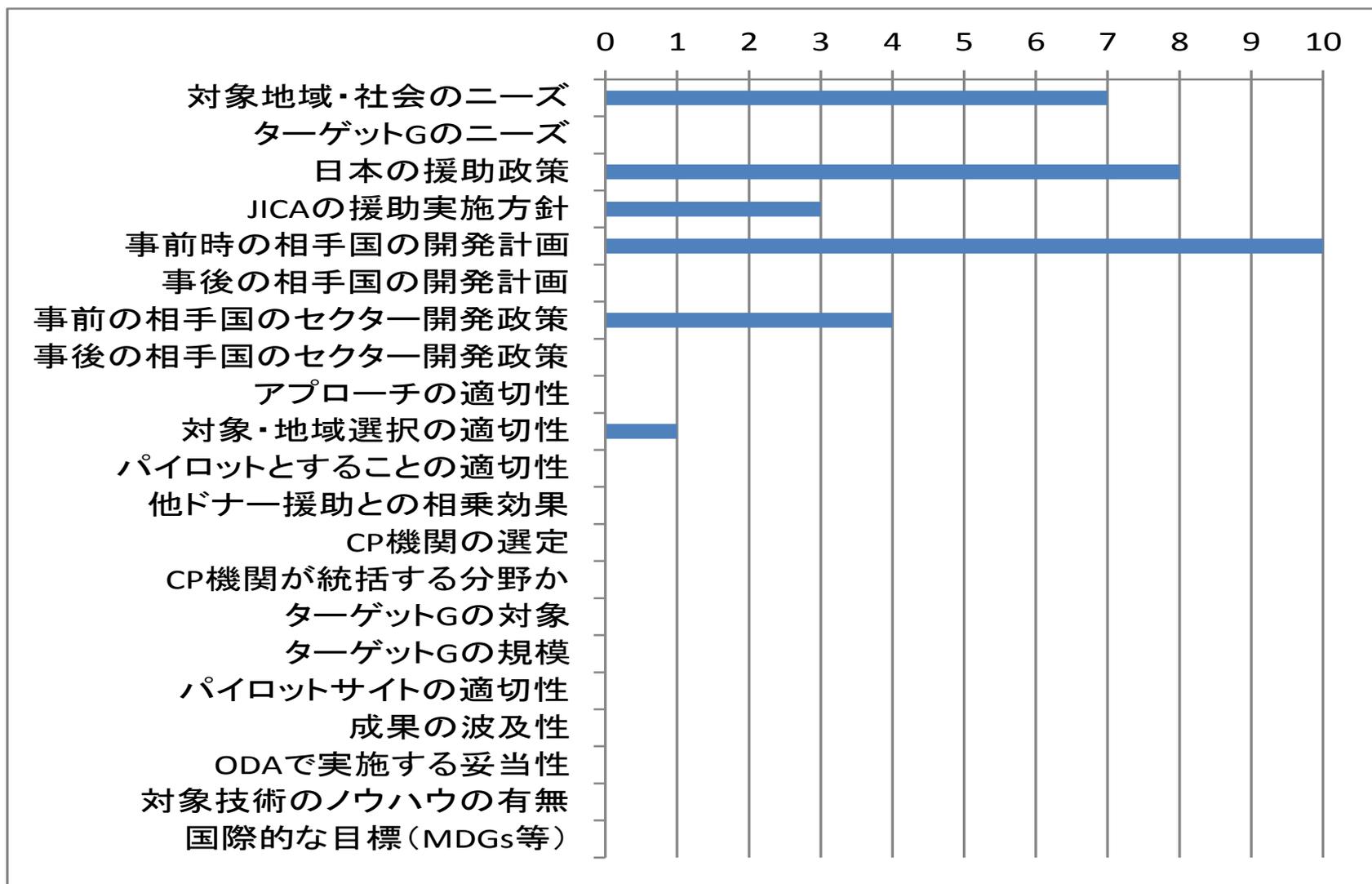
◆ 手法・手順

- JICAのスキーム×事前・終了時・事後別に計70件の評価報告書について事例研究
- 他ドナーの評価の視点・手法をレビュー
- 課題抽出と改善案(提言)作成

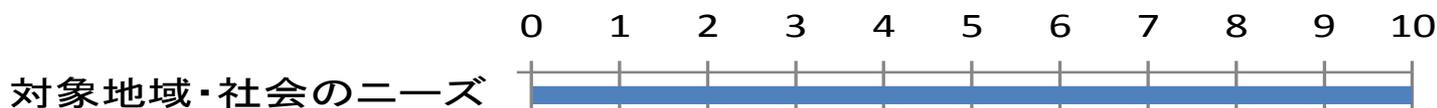
有償事前評価における妥当性分析



無償事前評価における妥当性分析



技協事前評価における妥当性分析



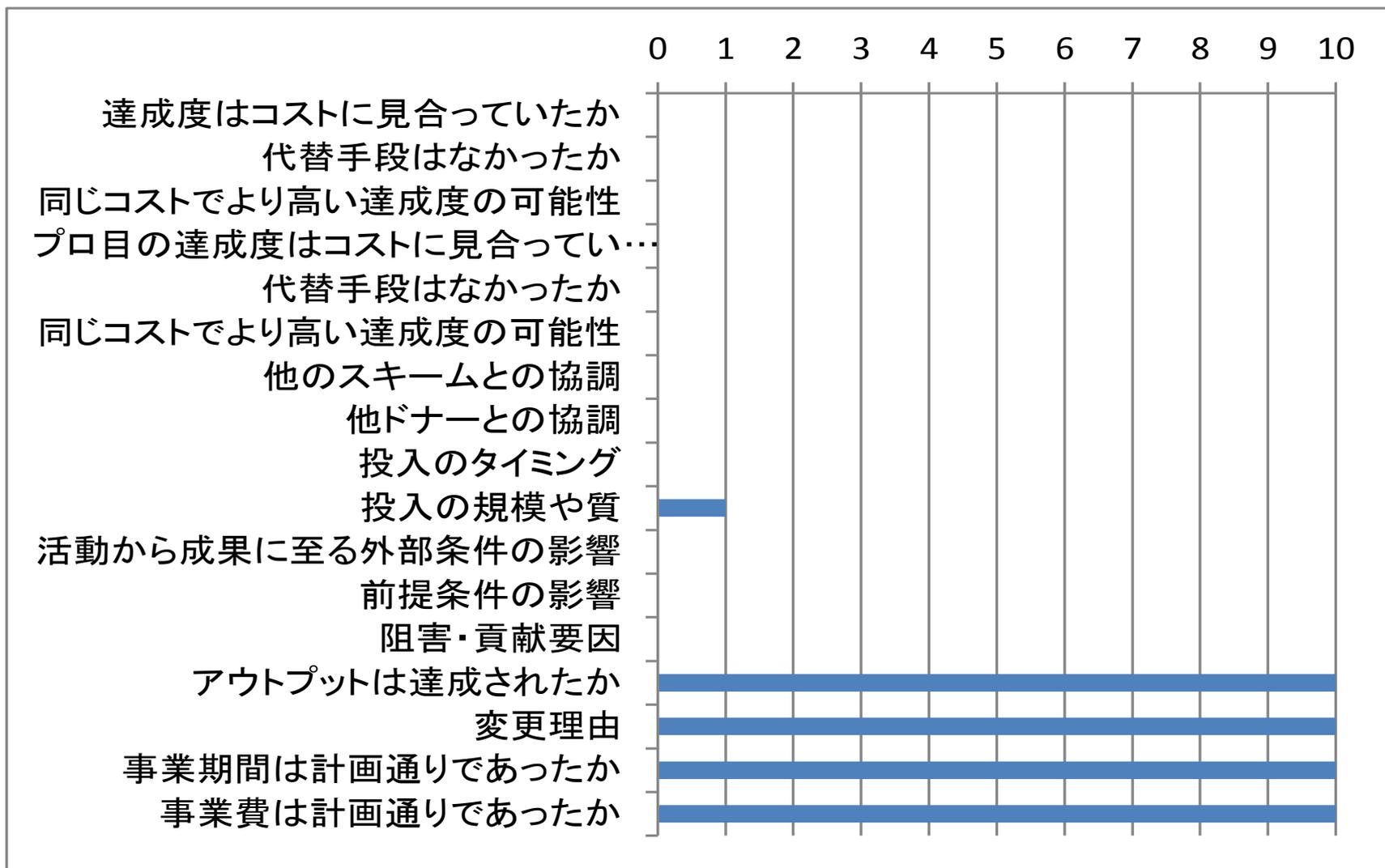
妥当性に関する分析では。。。

- ◆ 優先度は、国家開発計画等との関連性で「整合性あり」としているケースが多い。
- ◆ 「どの程度整合性があるか」は判断の対象ではなく、ばらつきが多くとも「整合性あり」とされる。
- ◆ ニーズは一般的な既存統計データを利用することが多い。定量的でない場合は、関係者または評価者の判断。
- ◆ 手段としての適切性はほとんど確認されていない。

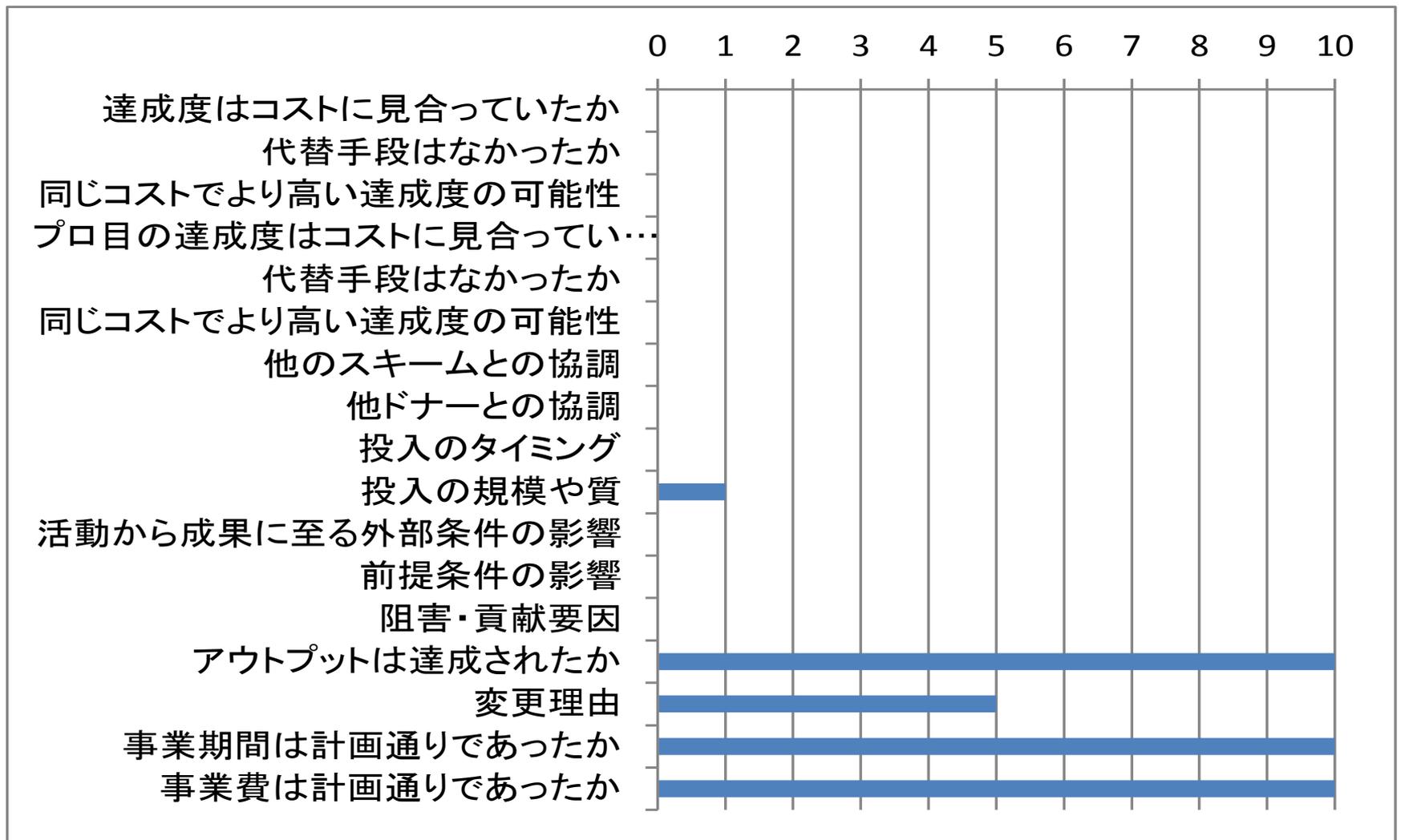
対象技術のノウハウの有無
国際的な目標(MDGs等)



有償事後評価における効率性分析



無償事後評価における効率性分析



技協事後評価における効率性分析

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

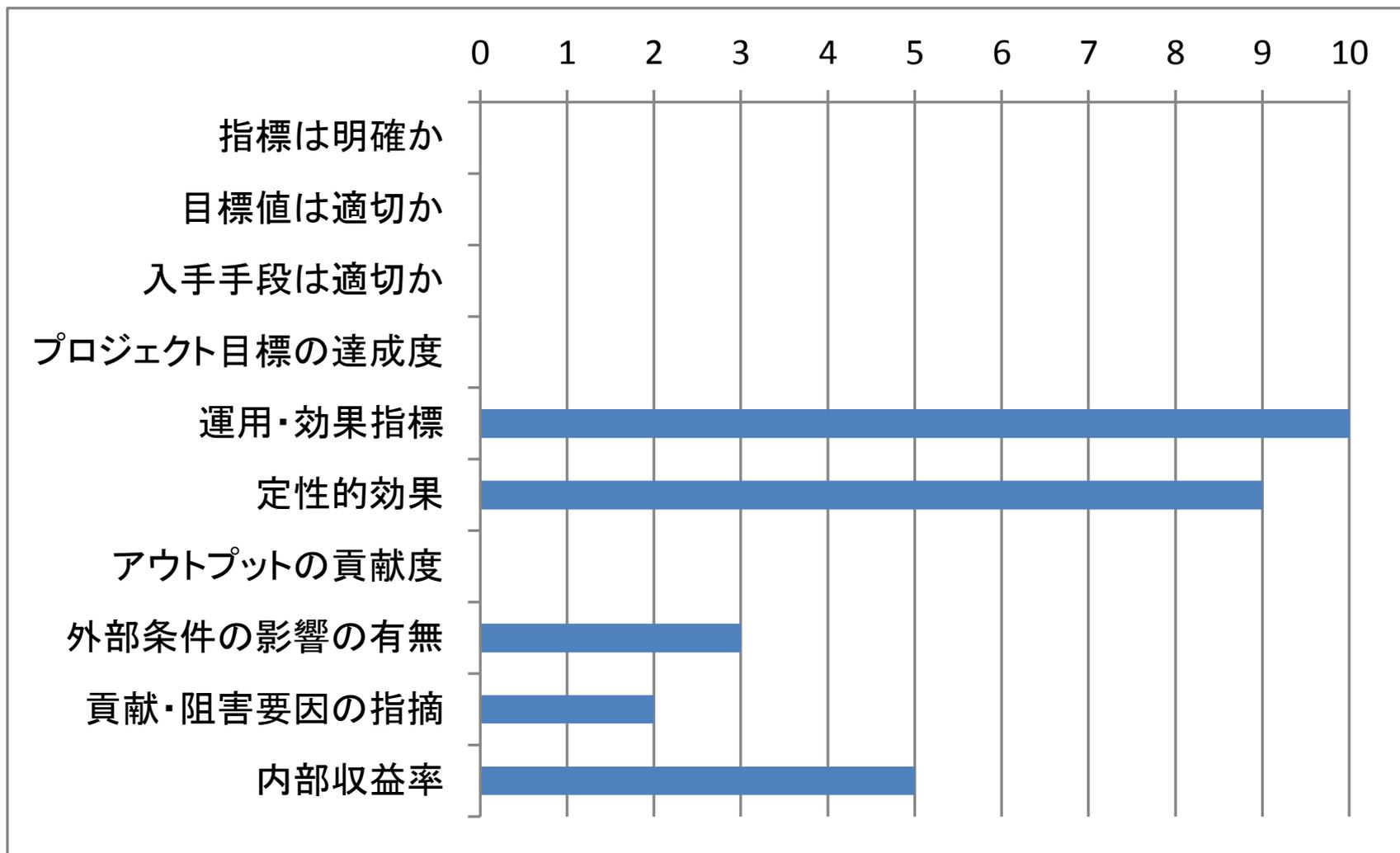
効率性に関する分析では。。。

- ◆ 有償・無償では、事業期間及び事業費の計画と実績の比較をもって、計画通りであれば「効率性が高い」と判断。
- ◆ 技術協力は投入の規模、質、タイミングについて分析・判断されるが、関係者へのインタビューが判断の根拠。
- ◆ いずれも費用対効果は確認されていない。
- ◆ 類似他案件との比較も行われていない。

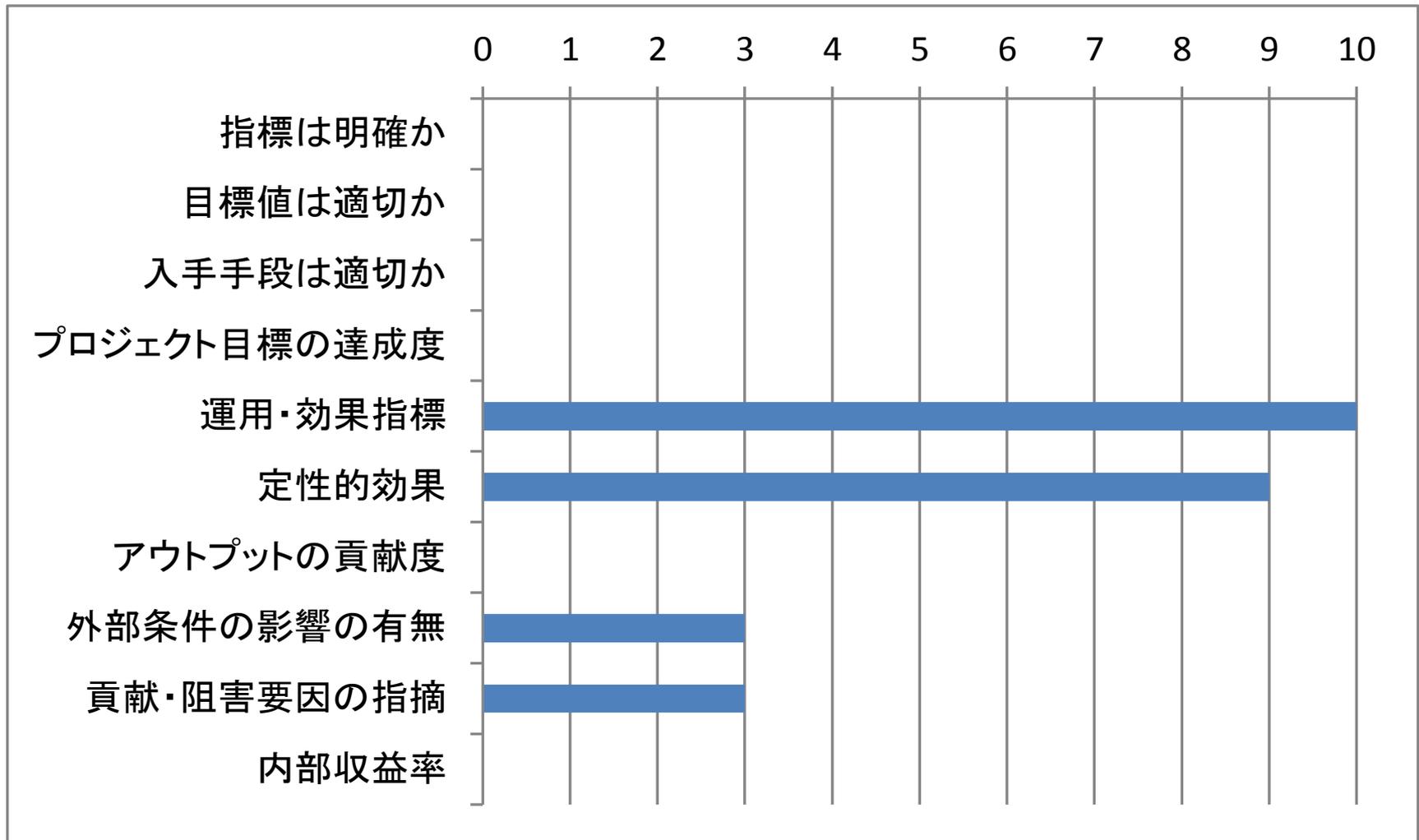
事業期間は計画通りであったか
事業費は計画通りであったか



有償事後評価における有効性分析



無償事後評価における有効性分析



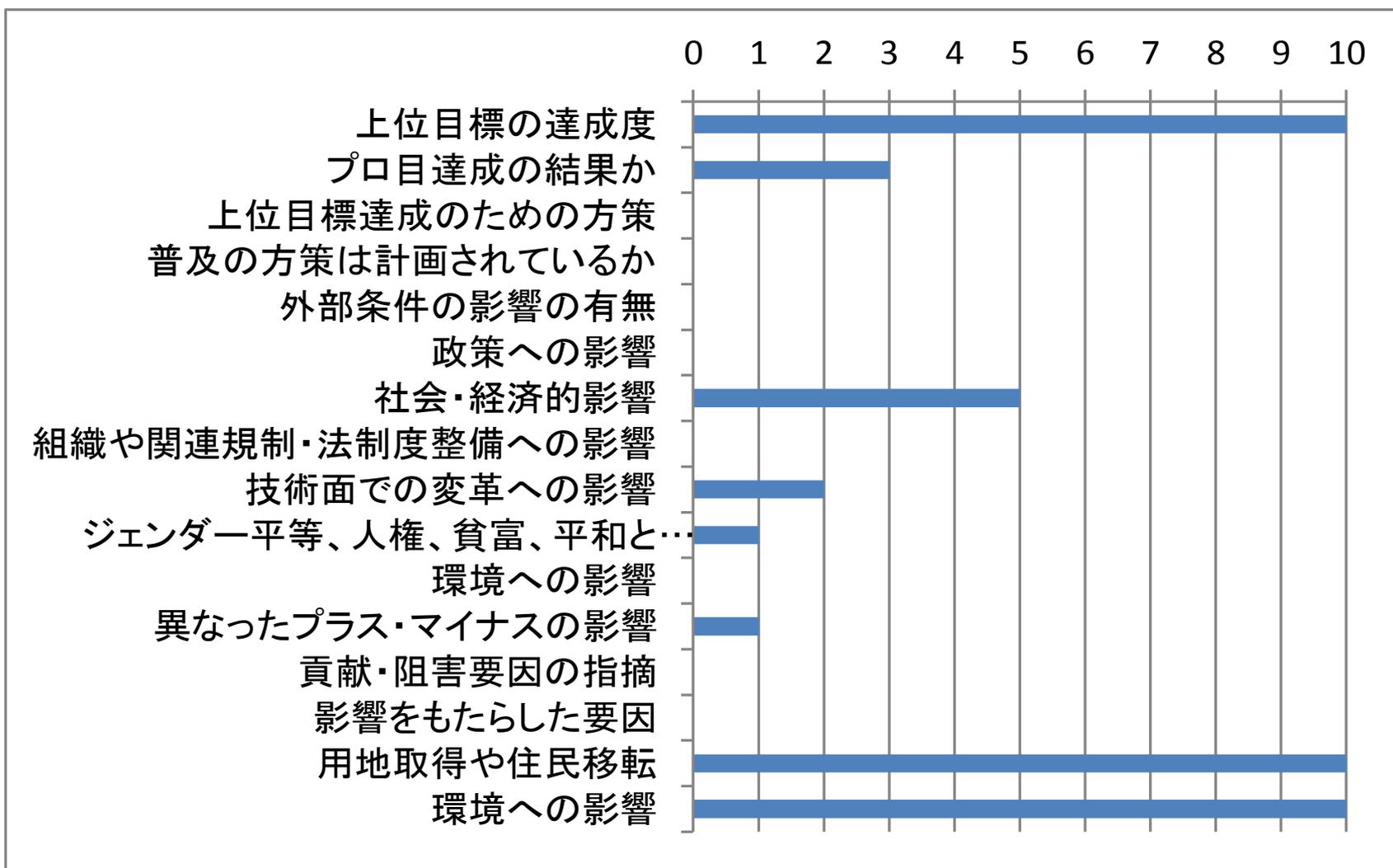
技協事後評価における有効性分析

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

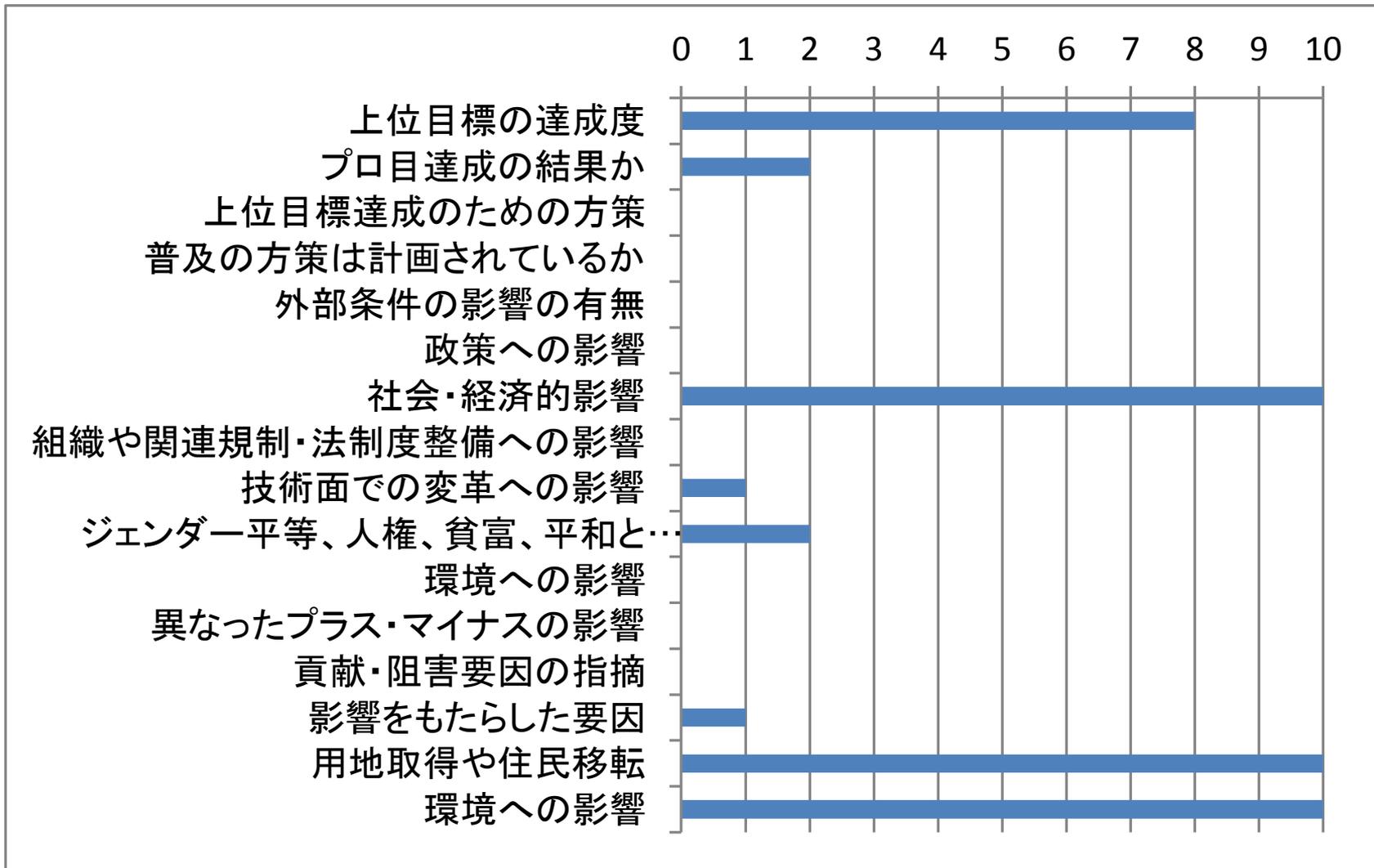
有効性に関する分析では。。。

- ◆ 技協はプロジェクト目標の達成度をもって有効性を判断している。目標値がなかったり、指標設定が適切でないケースあり。
- ◆ 有償や無償は、運用効果指標の達成度をもって有効性を判断している。多くが、アウトプットの達成度を示す指標である。
- ◆ 単純な事前・事後比較、目標値比較による分析が多く、プロジェクト介入による因果関係や、外部要因の影響については深く触れられていない。
- ◆ 定性的分析の根拠は「関係者(または評価者)の判断」。

有償事後評価におけるインパクト分析



無償事後評価におけるインパクト分析

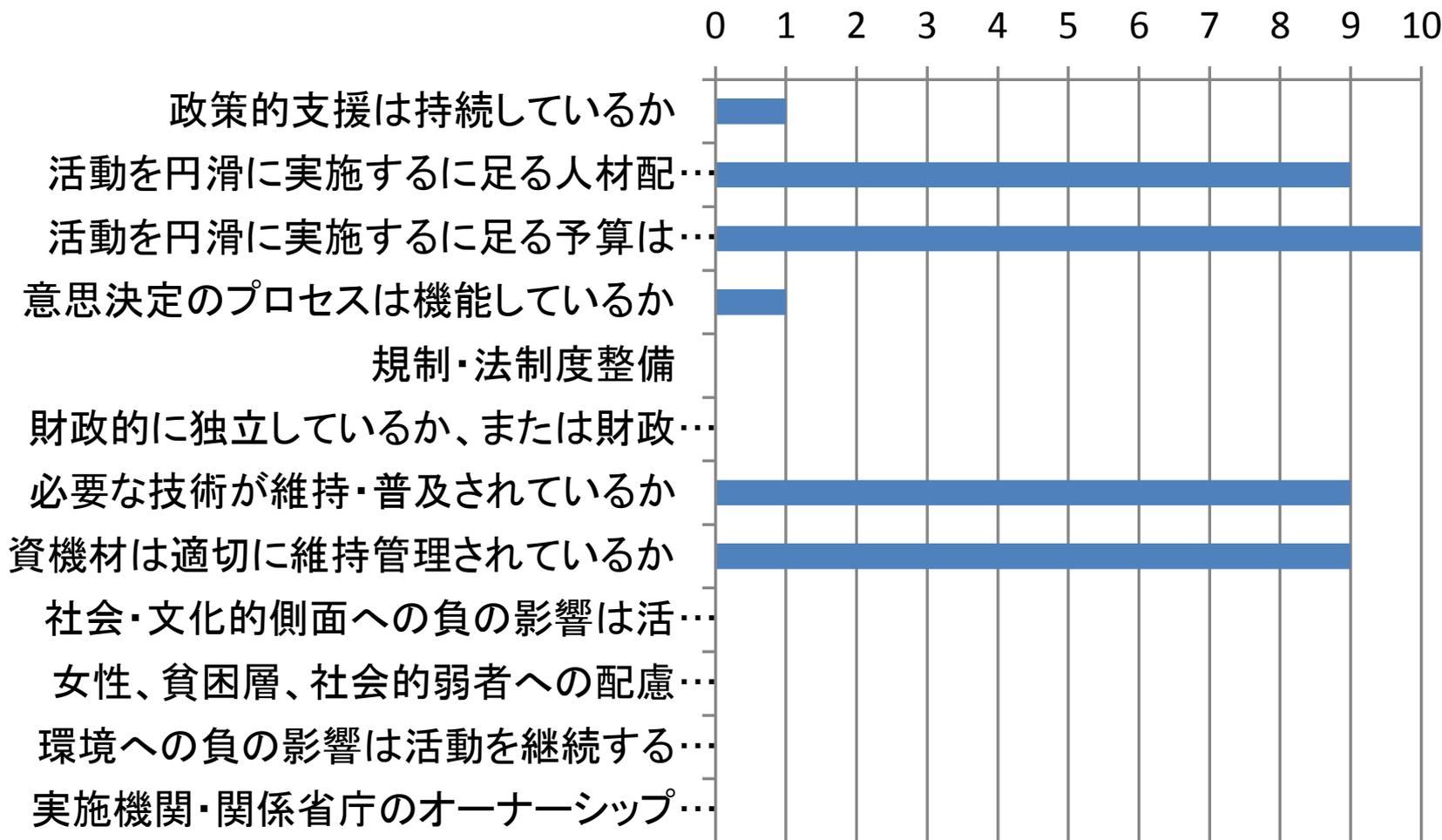


技協事後評価におけるインパクト分析

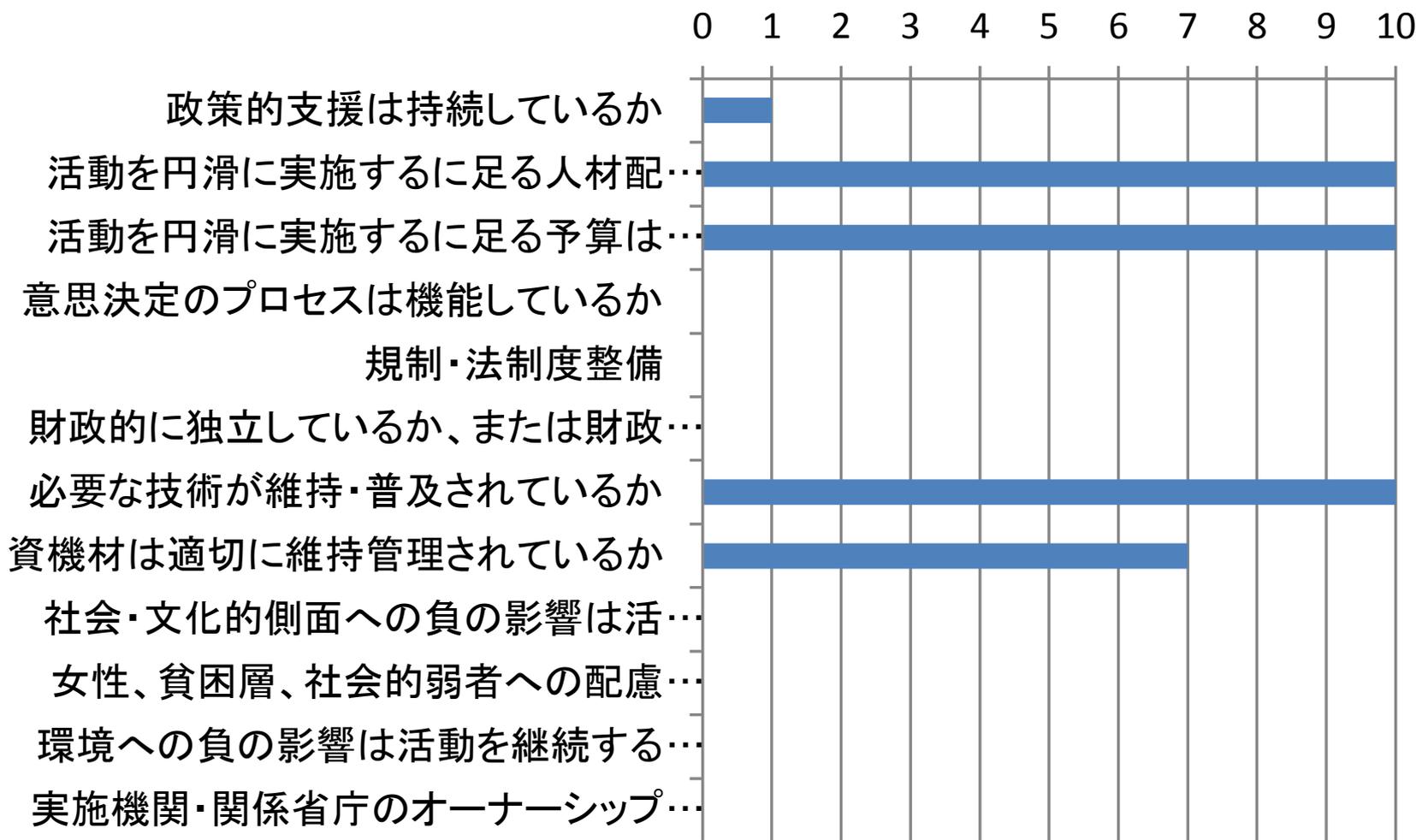
インパクトに関する分析では。。。

- ◆ 上位目標の達成度について何らかの記載はされている。
- ◆ 有償・無償の多くでは、貧困削減や経済成長など高いレベルの目標設定のため「達成度・達成見込みは不明」とされている。
- ◆ 技協では比較的目標設定が現実的で、達成見込みは書かれている。根拠は評価者判断。因果関係は記載されていない。
- ◆ 上位目標関連と波及効果の記述が混在。
- ◆ 事業完了から2年か3年ではインパクトを見ることは難しい。
- ◆ 短期間、評価者1名(事後評価はローカル1名雇用)の事後評価でインパクトを見ることは困難。

有償事後評価における持続性分析



無償事後評価における持続性分析



技協事後評価における持続性分析

持続性に関する分析では。。。

- ◆ 有償・無償の事前評価では持続性について検討の記載なし。
- ◆ 3スキームとも、事後評価では運用・維持管理予算の有無、人材配置、施設機材の維持管理状況等で持続性が判断されていたが、その根拠は、関係者ヒアリングと施設・機材視察の結果から評価者が判断。
- ◆ 人材配置と予算は計画の有無（実績ではない）により持続性を判断。
- ◆ 維持管理や政策支援等は関係者ヒアリングが根拠。

「評価の視点」を中心に標準化への提言

- ◆ 現行ガイドラインの評価視点を見直して整合性向上
- ◆ スキーム×タイミング(事前、実施中、事後)別に重視すべき視点・項目を選択的に提示
- ◆ Outputの訳語を「成果」ではなく「アウトプット」、アウトカムの訳語は「アウトカム」に統一
- ◆ インパクトは上位目標関連と波及効果の2つに統一
- ◆ マネジメントの適切性は今後の検討課題
- ◆ 他ドナーに比較し、JICAは全事業の評価を丁寧に行実施。評価視点・手法は各機関基本的に類似。ドナーによっては選択的に深く掘り下げた評価を実施。インパクト評価等の選択的实施検討が必要

「評価士」資格認定の目的

- ◆ 評価に関する研究の振興・深化・向上、国内研究者の育成
- ◆ 評価能力を有する国内人材の育成とレベル向上
- ◆ 実践を重視した評価活動の効果的・効率的実施への貢献
- ◆ 国内における評価に関する意識の向上
- ◆ 国際的な意見交流

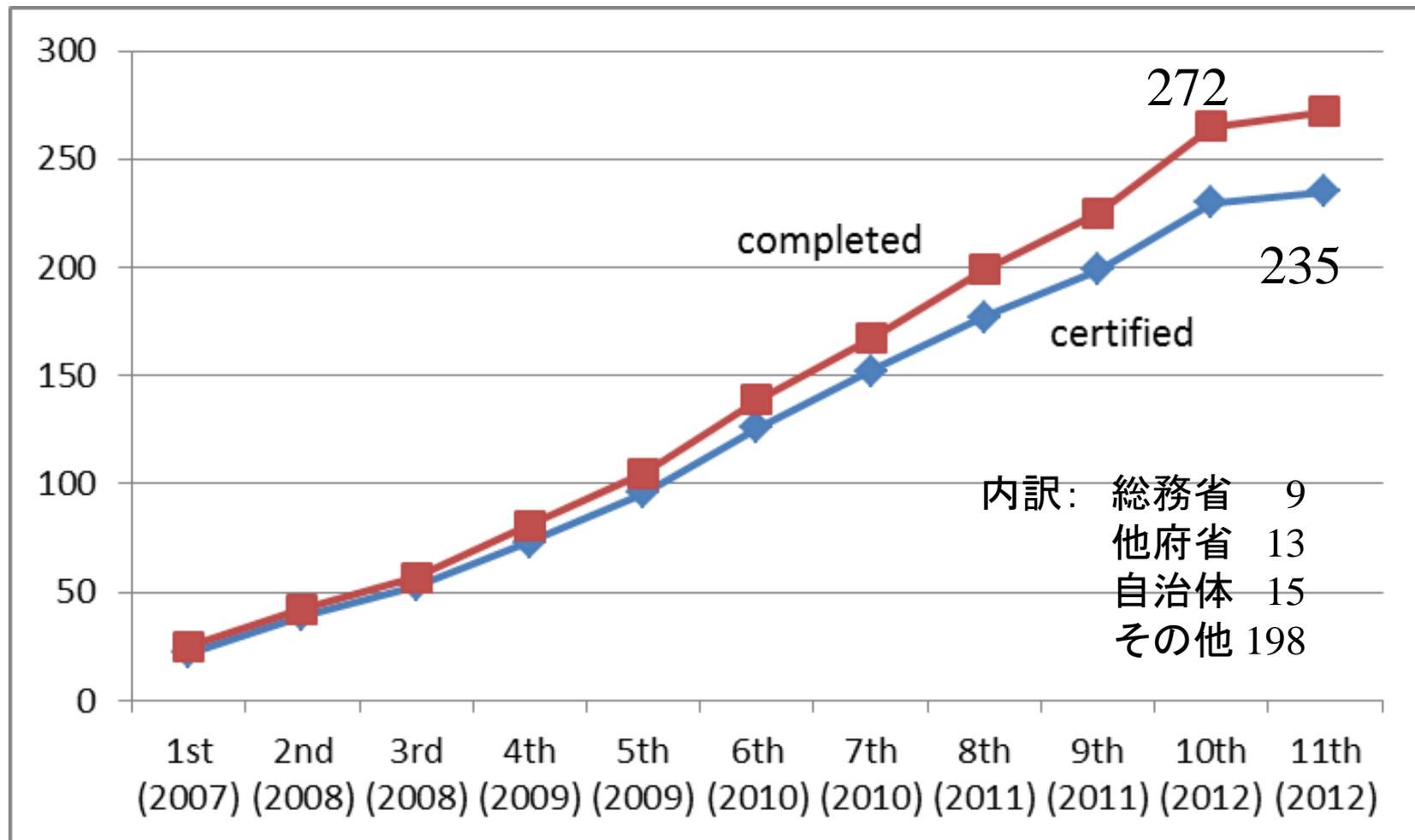
「評価士」の3つのレベル

- ◆ 評価士(初級): 評価に関する幅広い知識と技術を身につけた専門家
⇒ 6単元(日)講義・演習＋筆記試験
- ◆ 専門評価士(中級): 各専門分野の評価に関する深い知識と技術を身につけた専門家
⇒ 6単元(日)講義・演習＋実地研修・報告書
- ◆ 上級評価士(上級): 評価に関する体系的な研究を行い、評価活動の発展に寄与する事ができる専門家
⇒ 書類審査

「評価士」養成講座科目構成

- 第1単元 評価の概論と関連法規、評価者倫理と評価者の社会的責任
- 第2単元 評価の基本論理、評価の設計
- 第3単元 分析手法(1)データ収集・分析、(2)ロジックモデルの構築、(3)実績指標の選定と実績測定、(4)インパクト評価、(5)費用効率性分析
- 第4単元 分析結果の判断とフィードバック
- 第5単元 専門分野科目(ODA、自治体、学校、大学、行政、教育、保健等)
- 第6単元 いろいろな評価アプローチとその利点、限界₂₄
評価の今後の展望

評価人材の拡充へ



学校専門評価士: 21名(2012)、上級評価士: 9名(2012)

ありがとうございました。